

総務常任委員会資料
2025年(令和7年)12月10日
政策局SDGs共創室産官学共創課

あかし共創プラットフォーム等について

本市では、地域の課題解決やまちの活性化に向けて、産官学民の多様な主体が共創する「あかし共創プラットフォーム」（以下「共創PF」といいます。）を「あかし対話と共創ウィーク」（以下「ウィーク」といいます。）を契機として、本年11月1日に立ち上げたところです。つきましては、同プラットフォームの概要について報告します。

1 ウィーク期間中の主な取組み

(1) 全国の仕掛け人集合（10月24日開催 / 参加者：70名）

対話と共創に取り組む実践者による経験や知恵、思いの発表と参加者との対話セッション

■明石市内の仕掛け人 大野 美代子（明石市連合まちづくり協議会 副会長）・井上 真紀（王子小学校区コミュニティ・センター職員）・畠 智徳（学校教育課 指導主事）・大野 成信（市民とつながる課 事務職員）
■全国各地の仕掛け人 高木 超（北九州市立大学准教授）・馬袋 真紀（兵庫県朝来市職員）・村田 まみ（福岡県大刀洗町職員）・後藤 好邦（山形県山形市職員）

(2) 首長サミット in あかし（10月25日開催 / 参加者：72名）

対話や共創によりまちづくりを進める首長によるパネルディスカッションと今後も対話と共創によるまちづくりを進めることについての共同メッセージの発表

■登壇者 淡路市長 戸田 敦大・生駒市長 小紫 雅史・小布施町長 大宮 透（オンライン） 諏訪市長 金子 ゆかり（オンライン）・掛川市長 久保田 崇・明石市長 丸谷 聰子

(3) 共創PFキックオフイベント（10月31日開催 / 参加者：33名）

異なる分野でまちづくりの取組を実践してきた方々（市内の企業や学校、まちづくり協議会やNPO法人、あかしSDGsパートナーズ等の関係者）と市各部門の職員が参加し、共創に関する講義や参加者同士の関係の質を向上させるワークショップ、明石市の未来のために、話したいこと・生み出したいことについての対話を実施

(4) 対話と共創の大交流会（11月1日開催 / 参加者：65名）

ウィーク期間中の取組を振り返りながら、学識経験者・研究者から対話と共創の必要性について講話いただくとともに、7名の参加者自身が対話したいテーマを提案し、賛同した参加者同士で対話交流

■ゲストスピーカー 加留部 貴行（特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会フェロー / 九州大学大学院統合新領域学府客員教授）
■共創トークメンバー 三田 愛（株式会社リクルート研究員）・嘉村 賢州（場とつながりラボ home's vi 代表理事）

2 共創P Fについて

(1) 目的

地域課題が複雑・多様化し、行政だけで対応することが困難となる中、「“もっと”やさしいまち明石」をまちのみんなで創っていくため、市民、民間企業や教育機関、市民団体やN P O、あかしSDGsパートナーズなど、産官学民の多様な主体が立場を超えて参画し、共創によってより良い解決策・新たな価値を創り出していくことを目指します。

(2) 運営方針

① 「つながり」で共創

異なる分野の知識や経験、バックグラウンドを持つ多様な方々が、組織、肩書や世代の違いを超えて継続的に対話することで、信頼関係と新たなネットワークを構築しながら、共創により新たな価値を創り出していくきます。

② 「テーマ」で共創

同じテーマに関心を持つ方々が継続的に対話することで、関係者間の相互理解を促進し、地域の課題解決やまちの活性化に向けて連携して取り組んでいきます。

【当面のテーマ案】空き家対策、居場所づくり、移動支援、脱炭素・ごみ減量 など

(3) 3つの機能

① 知りあう

交流会やセミナー等を通じて、共創の取組を実践しようとする方に共創P Fに参画いただくとともに、これまであまり出会う機会がなかった実践者同士のつながりと、信頼しあえる質の高い関係性をつくるなど、共創の入口となる出会い・関係構築の機能（つながる場づくり）を果たしていきます。

② 語りあう

ワークショップや事例発表会等を通じて、互いの課題を共有したり、課題が生じた背景や真のニーズを探るなど、共創で取り組むべき課題の把握、深掘りの機能（学びの場づくり）を果たしていきます。

③ 創りだす

相談会や連続セミナー、ピッチイベント等を通じて、取組アイデアのブラッシュアップや実践に必要な知識の習得、共に取り組むチームの組成など、共創の出口となる取組の実践、社会実装の機能（共創を応援する仕組み）を果たしていきます。

(4) 市の施策との連動

タウンミーティング等で明らかになった地域課題についても、「テーマ」による共創の中でも提示していくとともに、今後は各種の助成金・補助金、民間提案制度など様々な市の施策とも連動しながら共創を進めていきます。

(5) 今後の進め方

時期	内容
12月 14日	■ 第1回共創ミーティング（ウィークでのアイデアや気づきの振り返り・今後実践したい取組に関する対話）
2026年 1～3月	■ 連続したつながりの場（事例発表やトークセッション、対話等を通じて学びを深めるとともに、まちをつくる主体者となる市民同士のつながりを広げる） ■ 空き家対策に関する関係者会合（関係者の連携・支援策の実施に向けた対話）